

独立行政法人大学入試センター研究開発戦略

令和3年3月30日

独立行政法人大学入試センター理事長 策定

1. 研究開発戦略の趣旨

「独立行政法人大学入試センター研究ミッション」（平成29年10月25日理事長裁定、令和3年3月30日一部改正）を踏まえ、研究開発部が、幅広い研究領域にまたがる大学入試研究分野において、今後、中核的な役割を担うために必要な当面の方途を、「独立行政法人大学入試センター研究開発戦略」として定める。

2. 研究開発部及び研究部門の役割

1) 研究開発部の目的

センターの研究開発部は、本邦唯一の公的な大学入試研究の専門組織として、大学入学のための共通試験の改善及び個別大学における入学者選抜方法の改善を牽引すると同時に、公平・公正な共通試験の実施に貢献することを目的とする。その主要な研究内容は、①新たなテスト技術に関する研究、②試験問題の作成支援に関する研究、③個別大学の入試改革支援に関する研究、④高校・大学教育に及ぼす入試改革の影響に関する研究、とする。研究の推進にあたっては、大学、高等学校、試験研究機関等と積極的な情報交流や研究連携を図ることで、妥当性・実践性の高い研究成果を目指す。

2) 試験技術研究部門の役割

共通試験の安定的な実施に向け、問題の作成、試験の実施、試験結果の分析、採点・得点化の公平性・妥当性に関する研究や、社会の変化に応じた新しい試験の開発など、共通試験の改善に資する研究を数理・情報科学的方法に基づいて行う。

3) 高大接続研究部門の役割

高等学校から大学への円滑な接続に向け、大学入学者選抜の多様化に対応する試験の開発、入学者選抜や入試政策が学校・社会に及ぼす影響の分析、入試に関わる人材の育成など、高大接続の現場に即した課題への対応に資する研究を、多面的、領域横断的に行う。

3. 取組内容

1) 大学入試研究の計画

研究開発部の強みとなる研究領域を伸長させる一方で、大学入学者選抜に関する政策の動向や社会の展望を踏まえながら、大学入学共通テストの改善、個別の大学入学者選抜の改善のための基盤的・実践的な調査研究を、別紙により実施する。

2) 大学入試研究の実施態勢

限られた研究資源を有効に活用して、他機関（大学・高校等）との連携・交流を積極的に推進し、大学入試研究に必要な研究資源と研究者が集まる「場」を提供する。

(1) 研究プラットフォーム機能の強化

ア 柔軟な研究組織の編制（各教員が所属する部門を越えた研究組織の編制、外部研究者を招いた共同研究の実施、新たな称号制度（招聘教員）の構築）

イ 研究助成制度の構築（外部の研究者集団に必要な調査研究を委託し資金を配分）

ウ 魅力ある研究基盤の整備

- ・試験情報に関するデータベースの整備
- ・入試制度・政策に関する文書等の収集・保存
- ・過去の大学入試センター試験等の試験問題に関するデータベースの整備

(2) 教員業務実績評価の導入

(3) 問題作成支援・試験実施に関する事業部門（試験問題調査官を含む）との連携

ア 問題作成支援に関するもの

- ・共通テストにおける、いわゆる「良問」を作成するためのテストデザインに関する基本的な考え方の提示（試験時間、設問数、問題量、難易度や識別力等の関係、分野・領域のバランス、高等学校の授業改善に対するメッセージ性 など）
- ・「試験問題統計情報データベース」等の問題作成支援に係るシステムの提供

イ 試験実施運営等に関するもの

- ・成績の段階表示の方法に関する提案
- ・得点調整の方法に関する提案
- ・障害のある受験生に対する受験上の合理的配慮の方法に関する提案
- ・受験の動向や受験科目の選択の動向に関する分析

3) アドミッション専門職及び研究者の育成

(1) 他機関と連携しながら、アドミッション専門職の職能に応じた体系的な研修プログラムを実施するなど、高大接続に資する研修の実施及び内容の充実

(2) 全国大学入学選抜研究連絡協議会大会において教育プログラムの提供や若手研究者のセッションの設置、共同研究プロジェクトの企画などの研究交流の実施

4) 研究成果の公表等

センターにおける研究成果等の公表の仕方を工夫し、研究内容へのアクセシビリティを高めることを通じて、大学入試研究に関する国民の認知度をさらに高めるとともに、大学入試研究に対する研究需要（他機関との組織間共同研究など）を掘り起こす。

- (1) 研究内容の「ダイジェスト版」の作成
- (2) YouTube 等で動画を発信するなど様々なメディアの効果的活用
- (3) 試験情報の利活用に向けた調査研究と大学入試研究に関する論文の公表基準の明確化

4. 研究開発戦略の見直し

- 本研究開発戦略の策定後、原則として5年ごとに取組の進捗状況その他の状況を点検・評価し、必要があると認めるときは、研究開発戦略の見直しを図る。

第5期中期目標期間以降の研究課題について

研究ミッション	研究課題	研究期間 ¹⁾	課題細目
① 新たなテスト技術に関する研究	a. CBT における試験問題の作成方法・出題・採点に関する研究	【短期】	(1) CBT 試験問題の教育測定学的検討
		【中期】	(2) 英語のライティングやリスニングテストの CBT での実施に向けた共同研究
	b. 適応型テスト (CAT) における出題に関する研究	【中期】	(1) 測定精度の向上と暴露数の減少を同時に実現するための整数計画問題を用いた適応型テストの枠組みに関する検討
		【長期】	(2) CAT の実用化に向けての課題の克服
	c. 障害受験者配慮に関する新技術の応用	【短期】	(1) タブレットデバイスを用いた障害受験者配慮環境の開発・評価・整備
		【長期】	(2) 障害受験者配慮における CAT システムの応用
	d. 得点調整方法の改善に関する研究	【2022 年夏迄】	
② 試験問題の作成支援に関する研究	a. 良質の試験問題の作成に関する基礎研究	【短期】	(1) センター試験における良質の試験問題の特徴整理 (2) 共通試験の設問別属性（出題内容や問題形式等）と統計情報の関連分析
	b. 試験問題の解答プロセスや解答パターン等の検討に基づく妥当性研究	【中期】	(1) 解答プロセスの評価・分析方法の検討 (2) 試験問題の種類および学力等個人差の要因と解答パターンとの関連分析
	c. 大学入学後の学習状況との関連に基づく共通試験の妥当性検討	【短期】	(1) 過去の追跡研究の展望と方法的課題の抽出
		【長期】	(2) 協力大学との追跡研究の設計・実施・解析
③ 個別大学の入試改革支援に関する研究	a. 大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する研究	【短期】	(1) 大学で学ぶための基礎的学力の測定のための試験についての需要調査および事例調査
		【長期】	(2) 開発する試験のイメージに関する検討 (3) 試験の実現+追跡調査
	b. アドミッション専門職の育成支援に関する実践研究	【中期】	(1) アドミッション専門職の職能の整理に基づく研修内容の体系化 (2) ハイブリッド形式による研修方法の高度化

	c. 大学入学者選抜の改善に資するアーカイブの構築	【中期】	
④ 高校・大学教育に及ぼす入試改革の影響に関する研究	a. 教育制度の一環としての大学入試制度・高大接続システムの研究	【中期】	(1) 高校における探究的な学習を通じて身につける能力及び大学入学者選抜におけるその評価方法に関する調査研究
		【長期】	(2) 入試改革の評価：高校生学習行動パネル調査 (3) 高大接続システムの研究：海外の事例分析、大学教育につながる教育課程の研究
	b. 選抜の多様化・公平・公正に関する多角的研究	【短期】	(1) 諸外国における公平・公正に関するガイドラインの分析及び日本の文脈への適用
		【中期】	(2) 国内外における入試の多様化の実態把握（特徴的な事例分析、問題点、方法的妥当性、公正・公平等）
	c. 試験情報データの活用に関する検討	【長期】	(3) これまでの入試多様化政策の評価：効果と問題点（視点：対高校、受験生、大学、公正・公平等）

注：¹⁾ 【短期】新指導要領下の作題に間に合わせる（2年程度）

【中期】第5期中期目標期間終了時を目途にする（5年程度）

【長期】第6期中期目標期間終了時を目途にする（10年程度）